

活動報告書

報告者氏名：西村健一 所属：香川県立高松養護学校 記録日：2013年 2月17日

【対象児（群）の情報】

・学年 小学部5年生・高等部3年生

・障害名 脳性麻痺

・障害と困難の内容

小学部5年生；手元の操作をするときに自分の意思と違うところに手がいってしまうため、大好きなアイパッドを操作することができない。

高等部3年生；外出時にタブレットを膝の上で操作するため、周囲の安全確認が難しい。市販のテーブルを使うと足元が見えないため、路上の段差等に気が付けない。

【活動目的】

・当初のねらい

小学部5年生；自分でアイパッドのアプリを操作することができる。

高等部3年生；外出時安全にアイパッドを使うことができる。

・実施期間 平成24年8月～

・実施者 西村健一（臨床発達心理士） 谷口公彦

・実施者と対象児の関係

西村健一；同じ学校の教員

谷口公彦；同じ学校の教員(自立活動室)

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況

小学部 5 年生；本人は童謡などの音楽が大好きである。特にアイパッドのアプリ「おやこでリズムえほんプラス」に興味をもっていたものの、自分で手を伸ばすと手が伸展して画面を横切ってしまう、アイパッドを操作することが難しかった。

高等部 3 年生；「自分で外出し、いろんなお店に行ってみたい」という希望をもっていた。そこで、インターネットブラウザアプリ「Safari」や地図アプリ「マップ」などを活用して一人で外出する練習を行った。しかし、膝にタブレットを置き画面を注視したまま走行することがあり、周囲を見渡すことができず危険であった。そこで、市販のテーブルを設置したところ足元が見えない状況になり、足元の段差を自分で確認できなくなった。



タブレット端末を膝に置いたため周囲への注意が不十分になっている様子

・活動の具体的内容

小学部 5 年生；社会福祉法人香川ボランティア協会が受託した「高齢者・障害者による商品開発サポートサービス」事業（ものづくりソノまま研究室）

に、本人がアイパッドを自分で操作できる自助具の共同開発を依頼した。実際の自助具開発はデザイン工業株式会社とウインセス株式会社に協力を依頼した。

高等部 3 年生；かがわ健康関連製品開発フォーラムを通じて旭洋鉄工株式会社に、本人が安全に外出先においてアイパッドを操作できる自助具（タブレット PC 用テーブル）の共同開発を依頼した。

・対象児（群）の事後の変化

小学校 5 年生；自分で音楽のアプリが操作できるようになり、笑顔が多く見られた。自助具に腕を通すことにもすぐに慣れ、画面に集中することができた。

高等部 3 年生；外出時に安定した姿勢で必要なアプリを見ることができた。また、テーブルを自分の方にたたみ込むことで、足元や周囲を確認しながら街中を移動することができた。いろいろなお店にも行くことができ、本人は大変満足していた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき；企業と連携することにより、外見上も耐久性の優れた自助具を開発することができた。また、自助具を開発する過程で、本校の児童生徒に関する理解を企業の方に深めてもらうことができた。

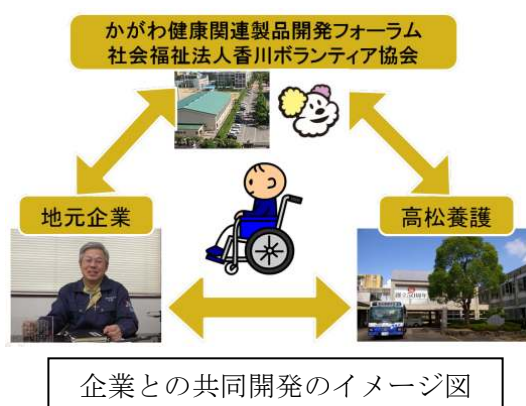
・その他エピソード（画像などを含めて）



自助具を使って音楽アプリを楽しんでいる様子



自助具を使って外出を楽しんでいる様子



各種自助具については、香川県立高松養護学校（西村）までお問い合わせください。